

デビュー40年 恩返しライブ

フォークデュオ「ふきのとう」の元メンバーで札幌出身の歌手山木康世が9月21日(月)、22日(火)の両日、デビュー40周年の締めくくりとなる記念ライブ「オータムマン〜蝦夷戯れ歌」を札幌・サンピアザ劇場(厚別区厚別中央2の5)で開く。初日はふきのとうがデビューした日、ギターで弾き語り、2日目はバンドで出演する。

(大原智也)

昨年出した記念アルバム「オータムマン」は2枚組の予定だったものが4枚組に。全40曲のうち約20曲が未発表作品で、「真田幸村十勇士」や「キリシタンジョシー」など歴史物も多い。「歌に具体性が出てきてドラマチックな曲になる」と手がけるようになった。

1974年デビューのふきのとうが92年に解散してからは、全国を回ってライブを重ねてきた。当初は「白い冬」などのヒット曲はあまり歌わなかったが、ソロの時期は

元「ふきのとう」札幌出身
山木康世



21、22日 「はっきりした四季、歌の原点」

「ほかの街でできないこともできるのが故郷。恩返しのつもりで歌いたい」と語る山木康世

うが長くなった今は、「分け隔てなく歌えるようになり、ギター一本ならではの楽しみも出てきた」と語る。

年々存在感を増す曲が、山木が作曲し、武田鉄矢(海援隊)に提供した「思えば遠くへ来たもんだ」(78年)。「武田さんから詞をもらった時『負け犬では故郷に帰れない』という思いを強く感じたが、まさかここまで残る歌になるとは思わなかった」と振り返る。

ライブの副題にもなっている曲「蝦夷戯れ歌」は、実家に金だらけがあり、今は「き父に『おまえが生まれた時、これで洗った』と言われたことから、後志管内真狩村に住んでいた幼少期に見た羊蹄山などを歌い込んだ。これまで自然がテーマの歌を数多く作ってきたのは「四季がはっきりしていた、その時の風景が歌の原点になっている」と山木。

両公演とも料金は5千円で、午後6時開演。問い合わせは山木倶楽部九段支部 090・5316・9071へ。